

## みんなの力で素晴らしい舞台に

### 東京バレエ団 白鳥の湖

7月6日、益田市のグラントワで東京バレエ団による「白鳥の湖」が上演された。

東京バレエ団の益田市での公演は初めてであったが、素晴らしい舞台だった。その舞台は、出演しているバレエダンサーだけでなく、裏方の衣装の人たちなどたくさんの人の力で素晴らしいものになっていた。

衣装の人は、1回の公演に300着以上の衣装を準備していた。

また、指揮者のワレリー・オブジャニコフさんは、踊りと曲を合わせるため、ダンサーをよく見ることを意識していた。

舞台監督は、全員がいい状態で仕事ができるように調整していた。

芸術監督の斎藤友佳理さんは、配役を決め、ダンサーを一番いい状態で送り出すことを心がけていた。

主役の柄本弾さんと上野水香さんは、緊張しないように本番前日もいつもと同じ生活リズムを心がけていた。

このような団員一人一人の努力があって、初めて素晴らしい舞台が作られるのだと感じた。

(子ども記者:上田彩葉)